



自主防災リーダー研修

「まち・ひと・しごと創生法」の展開について



質問者
石内 浩 議員

まず「ひと」をつくる。「ひと」が「しごと」「まち」をつくり、「しごと」が「ひと」を呼ぶ。この循環を地方に確立させる計画で、一極集中化のツケを地方にともあるが、この機会を生かすべき町の取り組みを伺いたい。

(1) 「住民参加」(ポランティア活動)の数と人員、担当窓口等の他町比較、自治会のリーダー育成とあり方、行政パートナー等の導入は。

(2) 「しごと」の面では、資産を負担とする公会計の導入予定だが、設備更新・減価償却の扱いとその取り組みは。

は46団体、844名。他町では、担当部署の違い等で把握が難しく、その特徴なども確認に時間がなかった。自治会活動は、地域での自主的活動を尊重し、自治会長を行政協力委員に委嘱し、また地域集会所施設の指定管理者にお願いしている。

の質の評価、予算編成を含む行政改革に、積極的に取り入れ、限られた財源の有効活用につなげたい。

(3) 生涯学習として、年5回町民大学を継続しているが、今後は、高齢者をはじめ多くの方が、活動の担い手としての、仕組みづくりが必要と考えている。子どもの居場所づくりの寺小屋教室も続け、次世代の地域力アップにつなげたい。

るなど、大変ご苦労された事と思いますが、来年度予算案から本町の将来像がどのように読み取れるのかお伺いいたします。



行政と地域活動のサポートに 回答 (町長)

(1) 当町のポランティア

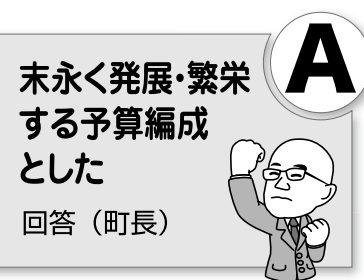


質問者
大館 秀孝 議員

平成28年度予算について問う

国のアベノミクス効果が、中央・大企業のみで感じられ、地方自治体では厳しさが増す昨今、本町の来年度予算は、歳入では町税0.1%微増、地方交付税1.8%減、

町債20.4%増。また歳出では人口減少が続く中、定住化に向けた基礎的プロジェクト対策業務、重点的まちづくり戦略事業で都市マスタープラン策定業務等計上され



末永く発展・繁栄する予算編成とした 回答 (町長)

本町の財政は、町税等の一般財源に若干の増加は見込まれるものの、社会保障経費の増大、安心して子どもを産み育てる地域づくり、ICTを活

用した教育環境充実、公共施設の大規模修繕、JR松田駅や新松田駅周辺整備事業など、町の発展に寄与する将来的な財政需要を考慮すると、更に厳しい財政運営が続くと予想される。

第5次総合計画での町の将来像として「緑と清流のまち、ゆとりを樂しむ きらめく松田」となるよう、アクションプログラムの中で数々の施策を示して実行しています。松田町が末永く発展、繁栄するために、一番重要なことは、まず、定住人口の増加と考えており、来年度の予算編成に臨んだ。



水位計や電動弁を改修する宮下水源地